



# Overseas Fishery Cooperation Foundation of Japan

## 評価報告書

— 2022年度 課題別研修事業 —  
(終了時評価—2023年4月)

### 漁船員養成(乗船)コース

#### 研修生受入の概要

研修コース名	漁船員養成(乗船)コース
参加国及び参加人数	2か国 5名(ミクロネシア連邦1名、パプアニューギニア独立国4名)
研修コース実施の経緯と背景	<p>我が国かつお・まぐろ漁業の重要な漁場をその EEZ に有する太平洋島嶼国では、自国のかつお・まぐろ資源を最大限に活用した経済発展を目指しており、その方策の一環として自国水域に入漁する外国漁船や合弁漁船に自国民を乗船させ雇用拡大を図ろうとしている。</p> <p>本研修は、ミクロネシア連邦(以下「ミクロネシア」という。)及びパプアニューギニア独立国(以下「PNG」という。)両国から要望された自国民乗組員の育成を行うもので、太平洋島嶼国からの研修生に対して「漁船乗組員としての資質の向上」及び「漁労活動に従事するための基礎能力の習得」に関する研修を実施することにより、当該国の沖合漁業の振興と雇用の創出に資するとともに、我が国との協力関係の維持・発展を図るために設定されたコースである。</p> <p>なお、研修を修了した太平洋島嶼国の乗組員は、将来的には日本漁船に就業の場を求めることもあり、乗組員不足に直面する我が国遠洋漁業の支援となることも期待される。</p>
研修期間及び研修場所	<p>2022年10月20日～12月5日(47日間)</p> <p>一般研修：10月20日～12月5日(47日間)</p> <p>(研修場所：日本サバイバルトレーニングセンター、製網工場、造船所、水産関連施設等)</p>
上位目標	関係途上国の水産業における雇用が増大する。
研修目標	良質な部員クラスの漁船乗組員に必要な基礎知識を習得することで雇用の増大に貢献する。
成果	研修生は海外まき網漁業及び船上甲板員に求められる基礎知識を習得

	した。研修生が習得した知識が自国まき網漁船、あるいは我が国の海外まき網漁船に就業した際に活用されることが期待される。
活 動	<p>1) 学科講義：日本語基礎会話、まき網漁業の基礎的技術（まき網漁船の特徴と操業概要、船内生活、船体主要部名称、係船設備と係留索の種類、魚群形成・漁獲方法、投網・揚網・作業手順、製品管理の基礎知識、漁獲物の冷凍・保冷・作業手順、乗泉寺の一般的注意事項、操業時の注意事項、退船時の注意事項と救命筏の取り扱い、安全標識、乗船準備の注意事項、船員の心得等）</p> <p>2) 安全講習：STCW 基本訓練（生存訓練、消火訓練、応急訓練等）</p> <p>3) 見 学：水産関連施設等（水産卸売市場、製網工場、造船場、まき網漁船等）</p> <p>4) 実技訓練：漁具取扱い実技（結索技術、漁網修理）</p>
投 入	<p><b>財団側</b></p> <p>1) 講師等（延べ人数） 日本語講師 11 名、専門家 1 名、研修監理員 3 名、水産講師 1 名、漁船・漁具講師 6 名、安全講習指導員 3 名</p> <p>2) 研修資材 日本語テキスト、まき網漁具実技関連資材（漁網、ロープ・ワイヤー等）、視聴覚教材（2021 年度制作海外まき網漁業の DVD 動画教材）</p> <p><b>受入対象国側</b> 投入なし</p>

## 評 価 事 項

### ◆ 妥 当 性

#### 1. 研修実施計画は相手国のニーズに合致していたか

ミクロネシア及び PNG は、かつお・まぐろ漁業の開発振興を国の重要な政策としている。また、国内に就業の場が少ない若年層の雇用促進策の一環として、我が国の遠洋漁船への乗船も推し進めている。本研修は、まき網漁船を対象とした部員クラスの漁船乗組員の育成を目標としており、ミクロネシア政府及び PNG 政府の漁業振興政策及び若年者層雇用促進施策を人材育成の観点から支援するもので、相手国のニーズに合致していた。

#### 2. 研修実施計画の妥当性（一般研修・技術研修）

一般研修内容は、まき網漁船の甲板部員に必要な知識及び漁具の取り扱いを広範に習得さ

せるものであり、妥当であった。

3. 研修実施計画は、一般研修期間及び技術研修期間中の研修生活の実態を考慮して作成されたか

一般研修では、日常生活及びまき網漁船の甲板部員に必要な基礎会話の習得を目的として、日本語研修を実施するとともに、船上で必要な知識及び技術の習得のための学科講義及び実技訓練、安全講習等を陸上で実施した。いずれも専門講師又は研修監理員等を適切に配置する等、研修生活の実態を考慮した計画を作成した。

4. その他

特になし。

## ◆ 効 率 性

1. 講師、研修施設、研修資機材等は計画通りに投入され、期待される成果を上げたか

日本語研修には専門講師を1コマ1名、漁労技術等の講義と実技には、分野別の講師6名と専門家を1名、安全講習には専門講師3名を配置した。

また、研修施設等は、各種研修等に使用されているものであり、教材等も予定している各学科講義あるいは実技に対応するものを準備した。

以上の人的及び物的投入は、計画どおり実施され、期待される成果を上げた。

2. 研修内容、水準、技術指導方法は適切に実施されていたか

研修日数、講義、実習の内容及び水準並びに指導方法は、状況に即して適切に計画され、実施された。

3. その他（研修の効率性に影響を与えたと考えられる貢献・阻害要因等）

特になし。

## ◆ 有 効 性

1. 研修目標の達成度

研修目標：良質な部員クラスの漁船乗組員に必要な基礎知識が習得できる

一般研修を通じて、まき網漁船の甲板部員が学ぶべき、日本語、乗船心得を学科講義、漁具の取り扱いを実技訓練により学ばせることができた。また、STCW基本訓練を受講させることにより今後船員に必要な基本訓練修了証を取得させたことから、まき網漁船の部員クラスの乗組員としての基礎知識と技術は十分に習得したと判断され、研修目標は達成された。

2. その他（研修生の研修意欲・研修満足度等及び職場における社会・文化、制度上の環境等外部要因が、研修目標の達成に与えた影響等）  
特になし。

## ◆ インパクト

1. 上位目標の達成に対する研修目標の達成の効果は、どの程度見込まれるか

研修目標である良質な部員クラスの漁船乗組員に必要な基礎知識の習得は一定程度達成され、ミクロネシア及びPNGの人材が沖合・遠洋漁船に供給されることにより、上位目標である関係途上国のまき網漁業の自立・発展に対し、大きなインパクトを与えることが見込まれる。

2. 分野別研修事業は、政策形成、社会・経済等でどのような直接的・間接的な効果又は負の影響が見込まれるか

ミクロネシア、PNGの両国は自国のかつお・まぐろ資源を最大限に活用した経済発展を目指しており、その方策の一環として自国水域に入漁する外国漁船や合弁漁船に自国民を乗船させ雇用の創出を図ろうとしている。本研修を通じてまき網漁船員が育成されることは、合弁船をはじめとする大型まき網漁船への雇用機会が増えるとともに、同国の水産振興に必要な人材の育成・確保への効果が期待される。

3. その他（計画当初予見できなかった効果又は負の影響が見込まれるか等）

特になし。

## ◆ 持続性

1. 研修生は帰国後、研修の成果を有効に活用している（できる見込み）か

研修生は、将来的に自国あるいは我が国の海外まき網漁船に乗り込む予定であり、習得された漁撈技術等は有効に活用される見込みである。

2. その他（相手国及び研修生の自立発展に影響を与えたと考えられる貢献・阻害要因等）

特になし。

以上